



# HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	協働を創出する社会的基盤 : ソーシャル・エンゲイジド・アートとしての Art City の実践に着目して [全文の要約]
Author(s)	戸澤, 里美
Description	この博士論文全文の閲覧方法については、以下のサイトをご参照ください。 <a href="https://www.lib.hokudai.ac.jp/dissertations/copy-guides/">https://www.lib.hokudai.ac.jp/dissertations/copy-guides/</a>
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(教育学)
Dissertation Number	甲第15335号
Issue Date	2023-03-23
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/89508">https://hdl.handle.net/2115/89508</a>
Type	doctoral thesis
File Information	TOZAWA_Satomi_summary.pdf



## 博士論文の要約

博士の専攻分野の名称：博士（教育学）

氏名：戸澤 里美

### 学位論文題名

協働を創出する社会的基盤：

ソーシャリー・エンゲイジド・アートとしての Art City の実践に着目して

地域社会の多様化が進む中、様々なアイデンティティを持つ住民達が互いの違いを認め合い、生かし合う「共生社会」の創出が、これからの地域づくりに求められる要素の1つである。本研究では、多文化共生社会を志向する国家の中でも、世界で初めて多文化主義政策を導入したカナダに着目した。そして、民族的背景の相違点に起因する差別問題解決のために実施してきた政策の中で、芸術文化は個人・社会双方に社会経済的効果をもたらしているという報告を踏まえ、地域社会という公共圏で芸術活動を展開するソーシャリー・エンゲイジド・アート(SEA)を手掛かりに、共生社会実現のためのモデル形成、そして、その効果が地域に定着するまでの過程を精査し、社会的基盤の機能を明らかにすることを目的とした。また事例として、芸術活動を介した協働関係を通し、新たな集団アイデンティティを構築しているマニトバ州、ウィニペグ市のアート・センター「Art City」を取り上げた。

第1章では、カナダがこれまでに実施してきた政策の中で、芸術活動を活用したものに焦点を当て、実践を通して得られた成果および現在の課題を検討した。カナダの芸術支援を目的とした政府の組織、Canada Council for the Arts(カナダ芸術評議会)は、1970年代初期から、地域を舞台に芸術活動を展開するアーティストやその活動の支援を行っている。2006年発行の報告書によると、芸術家達と地域との共同的な創造活動は、様々な文化的体験を通して多様性・包摂性を促進し、住民達を結び付けるための共同活動を創出する他、芸術活動への主体的な参加を介した他の領域との交差が、社会的スキルの習得やネットワーク拡張のように、日常活動との協働を生み出しているという。しかし、芸術活動がもたらす効果の地域における持続性が課題として挙げられており、仮に地域で展開される芸術活動が、住民間に対等な関係性の構築を促進しても、さらなる相互作用の蓄積や、より多くの参加者との間に協働を生み出す場の欠如が、住民達の日常生活の中でもその効果を維持する社会的基盤を形成できない理由であることが確認された。

第2章では、本研究の事例である Art City が位置する、マニトバ州ウィニペグ市ウェスト・ブロードウェイ地区が抱える課題を明らかにした上で、これまでに地区で実施されてきた政策および成果の確認、そして Art City の実践分析を通し、Art City が構築する共生社会実現のためのモデルと、地域づくりとの関連性を明らかにした。ウェスト・ブロードウェイ地区は、貧困および、それに付随する様々な問題を抱えており、先住民族在住率の高さや移民・難民世帯の増加の影響から、近年では多様性との向き合い方も課題となっている。地区に存在する健康福祉や生活支援、また居場所づくりを目的に立ち上げられた組織・団体の中で、Art City とは、芸術活動を介した社会参画の機会を提供し、様々な民族文化および他の領域との交差を生み出す居場所機能を持つ場であると共に、参加者達が創造性を活用し、困難を乗り越えるための力を身に付けることで、日常生活そのものの改善を目指す場である。そして、地区のアート・センターという物理的な拠点として

の機能が、芸術活動を介した相互作用を蓄積し、多種多様な人々の間に対等性を構築する役割を担っていることがわかった。つまり、Art City とは、芸術活動を介して共生社会実現モデルを創出する場であり、そのモデルを地区内の様々なアクターと共有する、媒介項としての機能を有することが示された。

第3章では参与観察を基に、Art City の具体的な実践を精査し、機能①～③それぞれの構成要素、そしてArt City と地区との関連性について考察した。まずArt City の日常的な学習環境とは、参加者の主体性を育み、自分に適した方法での自己表現を可能とすると共に、参加者間に結び付きを創出すること、また、参加者達の希望に応じた頻度での来所が可能である点は、地区の中にいつでも立ち寄ることができる場があるという安心感をもたらしていることがわかった。さらに、Art City は地区主催の行事や独自のイベントを通して、地区を舞台に芸術活動を展開し、住民達が実際に芸術活動に携わる場も提供している。このように、より多くの人々が芸術活動を通してArt City と関わりを持ち、地区との結び付きが強化されることにより、Art City 単独では解決が困難な課題と向き合う際に、その他の機関や団体を介した支援の模索が可能となる。つまり、芸術活動および芸術活動が生み出す芸術外の領域との交差が、住民達の生活の包括的な支えを生み出しているということである。

第4章では、運営側のインタビューを精査し、社会的基盤の構成要素を整理した上で、その形成過程を明示した。分析の結果、以下に示す機能①～③が社会的基盤の構成要素であり、各機能が相互に関連することにより、社会的基盤が形成されることが明らかとなった。

機能①：住民達が主体的に芸術活動に携わり、対等な関係性を構築する、共生社会実現のためのモデルが形成される。

機能②：住民達が地域内の拠点において、芸術活動を介した相互作用を繰り返し、協働する居場所となると共に、より多くの参加者やステークホルダーを活動に巻き込みながら、モデルを醸成する。

機能③：モデルが地域社会に浸透し、住民達の日常生活の中で効果を発揮する。

まず機能①において、日常生活を支配する枠組から自由になり、主体的表現者同士として、芸術活動を介して他者との間に対等な関係性を構築することで、共生社会実現のためのモデルが形成される。そして機能②は、多種多様な参加者、すなわち異なる個が実際に集まり、相互作用を繰り返しながら共にプログラムを発展させていく拠点、つまり、芸術活動と地域社会とを結ぶ媒介項としての役割を担うと共に、継続的な活動の中で、地区内外の多様なステークホルダーとの連携を生み、さらには強化する場である。そして、媒介項である機能②により、機能①が地域社会という日常生活の中で持続的に効果を発揮することで、機能③が生まれる。以上の流れに加え、地域の実態に即し、芸術活動を介して地域が必要とするものを日常に組み込むことで、住民達の生活を変えていく創造性が、芸術活動と地域づくりとを結び付ける SEA の効果を維持する、社会的基盤形成の大きな要因であることが確認された。

第5章では、幼少時からArt City の参加者であり、現在はスタッフであるE氏の語りを分析し、上に示した機能①～③が相互作用的に効果を発揮する過程を実証的に示した。E氏は、幼少時からArt City の参加者として機能①を日常的に体験しており、Art City という場で形成された共生社会実現のためのモデルを、ウェスト・ブロードウェイ地区をはじめとする地域社会にも拡張していきたいという、強い意思を有している。この点は、

機能①が現実のコミュニティとして機能する Art City という場で育成される E 氏のような人材が、芸術活動と地域社会とを結び付ける媒介項として、機能③を実現するための重要な役割を担うことを意味する。つまり、地域課題の意識化を促すという視点から、機能①を地域社会で実践する人材の増加が、機能②の地域社会への浸透をもたらし、機能③を実現するという流れが、地域づくりを支えるための社会的基盤形成の過程であることを示唆している。最後に、本研究では、芸術活動の持つ創造性が社会的基盤を構築し、共生社会を実現し得るものであることを明らかとしたが、社会的基盤が機能するための条件の1つには、資金面も含め、芸術活動を恒常的に支える制度の安定が挙げられる。したがって、活動支援制度の実情も踏まえた上で、各地域の現状に適した形での社会的基盤の形成過程を示していくことを、今後の課題とする。